練馬区議会 民主党・無所属クラブ主催

イベントレポート

大地震に備えてペットとの避難
無料セミナー＆シンポジウム

150名の区民の方に参加いただきました

平成25年３月９日　練馬区役所地下　多目的会議室

ここ数十年のうちに高い確率で発生すると言われている「首都直下型大震災」。家族の一員として飼われているペットの存在も防災を考える上で無視できないものになっている。

「ペットは家族」といわれるが、中には「人が優先」という方もいる。災害が発生した時に備えて、専門的な分野で考えなければいけない時期に来ている。ペットとの同行避難は、これからの練馬区で必要なこととして練馬区議会で進めてきたが、区民の人とともに話し合う場が必要と思いこの会を開いた。

宮城県石巻市で被災した動物やペットたちの支援を行なってきた阿部獣医師を迎え、３・１１の経験から、練馬区でのペットの避難対策をともに考えた。

2・3P（中面）…シンポジウム

パネルディスカッション

「練馬区や東京都でのペット同行避難を考える」

練馬区担当職員や獣医師会、東京都議会議員、練馬区議会議員、被災支援している宮城県の獣医師が現状と対策を話し合った。

4P…基調講演

「東日本大震災　石巻 ペットとの避難」阿部俊範獣医師

3・11での被災ペット支援から学んだこと

基調講演をした
あべ動物病院 院長 阿部俊範

開会の挨拶をした
幹事長 白石けい子 練馬区議会議員

「被災した動物のために」募金
ご協力ありがとうございました

セミナー会場では募金箱を設置し、参加者の皆様より12,162円の募金をお預かりいたしました。

頂いた募金は、３月17日に宮城県で開かれた「すべての被災動物のために」慰霊祭に幹事長が参加し、宮城県獣医師会 大江義之会長にお渡ししました。

総合司会
倉田れいか　練馬区議会議員

閉会の挨拶をした
浅沼敏幸　練馬区議会議員

練馬区議会 民主党・無所属クラブ

東京都練馬区豊玉北6-12-1 西庁舎６階　TEL：03-3993-1111（内線7621～5）

パネルディスカッション

練馬区・東京都でのペット同行避難を考える

私たちの住む練馬区や東京都でもし大災害が発生したらペットとどう避難したらいいのか――。
練馬区の担当者や東京都議会議員、練馬区獣医師会が参加し、気になる現状を話し合った。

●コーディネーター
・練馬区議会議員 石黒たつお
●パネリスト
・練馬区保健所生活衛生課 課長 小林敏行
・練馬区獣医師会 会長 森理薫子
・練馬区獣医師会 防災委員長 原田順
・宮城県 あべ動物病院 院長 阿部俊範
・東京都議会議員 中谷ゆうじ
・東京都議会議員 あさの克彦
・練馬区議会議員 土屋ひとし

――（石黒区議）ペットを飼っている方は多いが、ペットが嫌いな方、アレルギーを持っている方もいる。一方的な考え方で進めるのではなく、パネラーからの意見を受け、練馬区における「ペットとの同行避難」について考えていきたい。

練馬区　ペットの防災についてクローズアップされるきっかけとなったのは、阪神大震災や新潟県中越地震だ。ペットと一緒だったから避難所に入れなかった、車中などで長時間過ごさざるをえなかったために体調を崩したなどの事態が発生したとされる。役所としてペットと防災を考えるうえでは、飼い主の生命を救うことが第一となる。

練馬区は平成19年に、地域防災計画の中でペットとの同行避難について盛り込んだ。その後、同行避難に関するルール作りのため、平成21年10月からは練馬区獣医師会にも参加いただき、検討会を立ち上げた。その後の東日本大震災の教訓もふまえ、今年度中には、基本的な考え方をまとめる予定だ。その内容を区議会に説明し、その後、区内の各避難拠点にも受け入れ体制づくりについてご理解を得てまいりたい。

石黒たつお　練馬区議会議員

練馬区保健所生活衛生課
課長 小林敏行

原田獣医師　練馬区獣医師会は00年に、区と災害発生時の動物救護に関する協定を結んだ。万が一のため、ペット用のシェルター候補地も3つ確保している。ペットといっしょに避難する訓練も実施してきた。3年前には、南町小学校を避難所に訓練を行った。避難所には、様々な人やペットが集まる。訓練は、そうした避難所の状態を実感してもらう機会でもあると考えている。

森獣医師会会長　実際の避難所では「こんな時にペットを連れてくるのか」という人もでてくるだろう。ペットを飼う人は皆が動物好きと思いがちだが、世の中の半分ほどの人は動物好きではないと思われる。ペットとの同行避難は、これを前提に考えなければならない。多くの人にペットが受け入れられるためには、日頃からのしつけが重要となる。練馬区獣医師会では生活衛生課と協力し、年1～2回、しつけ教室を開く予定だ。

練馬区獣医師会 防災委員長 原田順

練馬区獣医師会 会長 森理薫子

――来場者からのアンケートでも、避難所でのペットとの生活、動物嫌いな人との関係などを懸念する声があがっていた。実際にはどうだったのか。

阿部獣医師　東日本大震災の現場ではしつけの大切さを痛感した。しつけの行き届いた良い子なら避難所でも受け入れられる。私が訪問した避難所では、受け入れられるだけではなく、避難している人たちの心の支えにもなっていた。教育は飼い主の義務だ。他人に迷惑をかけないようなしつけをしなければならない。

――東京都はどうペットとの同行避難を進めていくのか？

中谷都議　避難拠点に、ペットが受け入れられるかどうかは事前に確認しておかなければならない。受け入れられない場所があるのならば、近隣で別の候補地を探すべきと考えている。

中谷ゆうじ 東京都議会議員

都では、災害時に負傷したペットや放し飼いにされているペットの保護を目的に、区市町村や獣医師会との協力体制を構築しようと進めている。避難所における動物の適正飼養を確保することも目指している。

私はあさの議員とともに、石神井公園にドッグランをという計画を推進している。これもペットに社会性を身につけさせるための取り組みの一つだ。避難所でいろんな動物が一緒になる。そうした時にもあわてないような社会性を身につけさせるのに役立つと考えている。

いつもの散歩ルートに避難所や避難場所を意識しているといざというときに役立つだろう。日頃からそうした視点を持って行動することが大切と考えている。

あさの都議　避難所生活を考えると、狂犬病の予防接種を徹底させる必要もある。現状、狂犬病の予防接種率は40％ほどというデータもある。東京都が作った平成19年度版の避難所管理運営の指針には、ペット台帳が示されている。そのなかにも狂犬病予防法による畜犬登録と、狂犬病予防接種の状況を確認することとされている。だが、そもそも接種していない人は入られないというくらいにすべきだ。ペットを守るために、飼い主の責任をしっかり果たさなければならないと啓発していかなければならない。

あさの克彦 東京都議会議員

土屋区議　練馬区では99の区立小中学校が避難拠点に指定されており、区はペットを連れて避難することを奨励している。

これはペットだけではなく、同行避難を躊躇することで発生する二次災害を防ぐことも目的としている。

とはいえ、避難される方は動物を好きな人ばかりではないので、各避難所ではペットの受け入れ場所を別に用意するなど体制を整えておかなければならない。また、区民の理解を得るために、同行避難が良いのだ、ペットと一緒に避難することが原則なんだということを周知徹底する必要がある。

土屋ひとし 練馬区議会議員

あさの都議　都では、しつけの重要性については飼い主へのPRを続けている。だが、実際どこまで届いているのかは疑問が残る。効果は限定的であるというのが現状だろう。

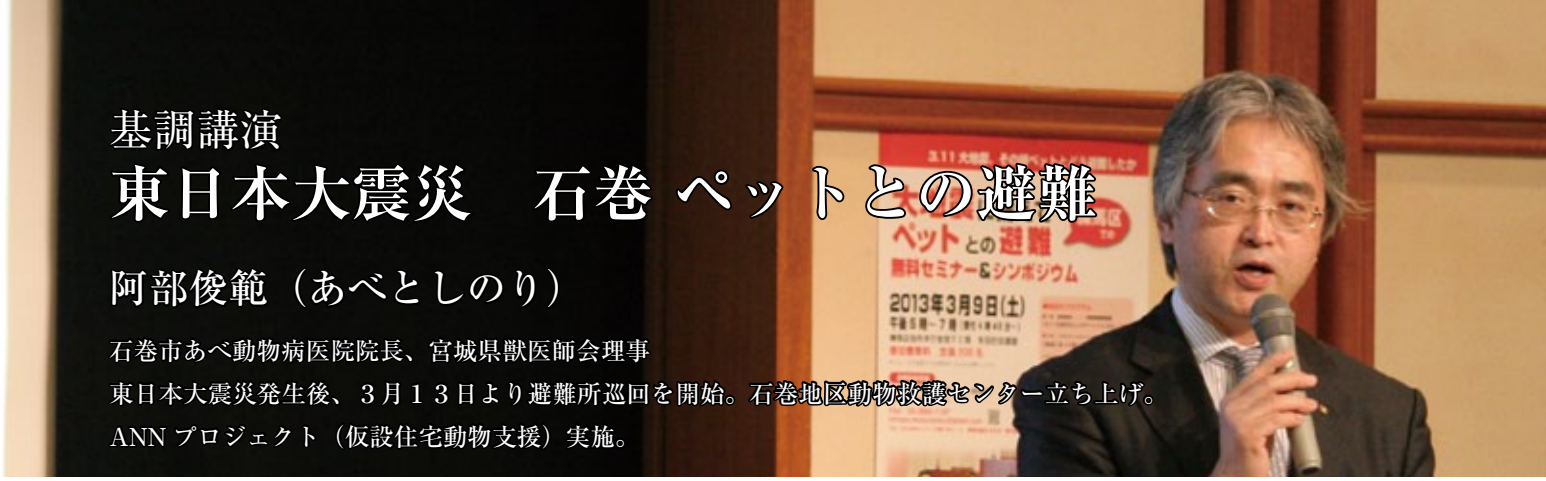
いずれにせよ、獣医師会や業界団体がペットの飼育実態を正確に把握することは大切だ。把握できなければフードや用品の備蓄量も図れない。

中谷都議　獣医師会との連携は各区でかなり進んでいるが、ペットフードやケージの備蓄はまだ進んでいない。飼い主の日頃からの準備が大切だ。

阿部獣医師　マイクロチップさえ入れていれば、飼い主のもとに戻ったペットはもっと多くなったはずだ。名札では外れる可能性もある。災害時には、やむを得ず離れ離れになってしまうことがある。

石巻のシェルターでは、全頭に狂犬病予防注射を接種した。万が一咬まれても対応できないからだ。愛犬家であれば狂犬病予防接種は接種してほしい。また、震災後には感染症の集団発生が起こりやすい状況でもある。狂犬病予防注射だけでなく、他のワクチン接種など、日頃からできるものは、飼い主の最低限の責務として実施してもらいたい。

あべ動物病院 院長 阿部俊範



基調講演

東日本大震災　石巻 ペットとの避難

阿部俊範（あべとしのり）

石巻市あべ動物病医院院長、宮城県獣医師会理事

東日本大震災発生後、３月１３日より避難所巡回を開始。石巻地区動物救護センター立ち上げ。

ANN プロジェクト（仮設住宅動物支援）実施。

避難所生活に明るさをもたらすペットの存在

東日本大震災が発生して二日目に向かった避難所では、元気がなく、まるで死んでしまったかのようにダンボールの上で寝ている方が多く見られた。一方、ペットと避難できる部屋では、人の顔が明るくて驚いた。写真を撮ると、にこやかにペットと撮影に応じてくれる。ペットは〝アイドル〟として歓迎され、みんなで可愛がることで、人は癒されていた。ペットの存在は飼っていない人にとっても大きなメリットがあると感じた。

避難所での暮らしに必要な〝ペットの社会性〟

避難所でペットが受け入れられるかは、「ペットの社会化」ができているかにかかっている。ペットの社会化とは、決まった場所で排泄をしたり、知らない人が来ても吠えない、他の動物に吠えないなどの教育を行うこと。人間の子供と同じで、共同生活のために教育は必要だ。共同生活ができないのは、ペットのせいではなく、教育をしない飼い主の責任。実際の避難所でもしつけの不足を痛感した人も多かった。

大災害に備えて、飼い主が準備しておきたいこと

・クレートトレーニングの実施

避難所でのペットとの共同生活では「クレート」が役に立つ。クレートはケージとも呼ばれ、普段から決められた場所で生活する訓練をすることで、避難所などでも犬が安心して生活できる空間を確保できる。避難生活では、クレートの中でおとなしくしていることができれば、安心して出かけられるようになる。

・同行避難に役立つ物資は？

避難所では、おむつやペットシーツが欲しいという人が多かった。猫は猫砂がないと排泄ができず尿石症を起こしてしまう場合もある。避難所の衛生環境維持のためにも準備しておきたい。心臓病や白内障などの薬を求める人も多く、常備薬なども、持ち出し袋に入れておくといいだろう。

・マイクロチップがあれば確実に再会できる

マイクロチップは直径数ミリのチップで、専用の読み取り機をかざすと、ペットに関する情報が読み取れる。

東日本大震災では、飼い主が生きていると思われるのに、再会できないペットがたくさんいたが、これもマイクロチップを装填してあれば、確実に家族のもとに戻れたはずだ。施術費用は数千円で、確実に飼い主のもとに戻れるので、ぜひ導入してほしい。

・ワクチンの接種は絶対

避難所で癒しを提供するペットの存在も、ワクチンを接種していなければ危険な存在になってしまう。特に狂犬病は、人間にも感染し発症すると致死率が１００％。ワクチンは必ず接種してほしい。

最近、仮設住宅では、ペットが増えている。家族を失った人などが飼いはじめるケースが増えているからだ。心理学では「自己対象」というが、愛情をかたむける対象があることで、人間はよりポジティブな感情を持って生きることができ、大災害発生時にペットは大きな助けになる。同行避難できるように、日頃から準備をしておいてほしい。

イベントを終えて

たくさんの質問がよせられました。別途配布いたしますのでご希望の方はご連絡ください。

皆様のご来場で、盛況のうちに終了しました。これからの課題として継続開催をしていく予定です。今後とも当会派をよろしくお願いいたします。

練馬区議会 民主党・無所属クラブ